

職員による自己評価

A環境面

教室には空間除菌脱臭機が設置され、机や椅子、クッション、デスクガードや教材も使い終わるとその都度除菌し清潔に保てている。

B児童への支援内容

月 1 回のケース会議で対象児童の情報を共有し支援プログラムの作成に活かしている。

毎日のミーティングで各児童の情報を共有し、その日の療育内容について話し合い、各自の特性とレベルに応じた指導に努め各児童の自己肯定感を育んでいる。

C関係機関との連携

出席できる関係機関の会議には積極的に参加し情報収集をしている。

D保護者への説明責任・信頼関係

保護者が送迎されるのが基本なので、そのときにその日の各児童の療育内容を保護者に丁寧にきめ細かく報告している。
必要に応じて適切な助言や支援をし、時には保護者の要望にも耳を傾けている。

E非常対応

入所時にアレルギーや持病について確認している。毎年、春と秋に避難訓練を実施している。

保護者による評価

A環境面

空間除菌脱臭機が設置され、学習机にはデスクガードが設置され感染症対策がなされている。療育スペースの清潔も適切に保たれている。

B児童への支援内容

児童ひとりひとりの特性やレベルに合わせ、保護者との連絡を密に取りながら、きめ細かく療育指導してもらっている。

指導員も手厚く配置されている。

C事業所からの情報発信

毎月発進される「あさがお通信」やホームページ等から情報を得ている。

D非常対応

ヘルメットや災害用補助備蓄品の用意があり、避難訓練も定期的に行っていると説明を受けている。目の前のしょうがっこうが指定避難場所のため、避難しやすく安心している。

事業所内での分析

【共通点】

デスクガードをすることによって、感染症対策だけではなく子どもの集中力が保てるという、スタッフと保護者の共通認識になっている。

療育内容については、保護者から概ねご満足いただけている。

【相違点】

働いている保護者や送迎が難しい保護者からは、送迎サービスがあるとありがたい、と言われている。

分析・検討してみても…

事業所の強み

通所児童の各自のレベルに合わせて取り組む課題が設定されている。毎日その日のミーティングで指導員全員で各児童の特性やレベルに応じて指導方針を話し合っている。それに基づいてその日の児童の状況に配慮しながら、児童に合わせて自己肯定感が高まるようきめ細かく声かけ支援している。送迎の際、保護者にその日の療育状況を報告し、保護者からも情報を提供いただき、子どもの療育に活かしている。

事業所の改善点

情報発信について分かりやすく、保護者に浸透するように伝えて行けるよう今まで以上に改善したい。

事業所の改善への取り組み

情報を発信したら、色々な機会を捉えその都度口頭で保護者に確実に伝わるように工夫していく。

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

個別支援計画に基づいた療育内容や日々の保護者対応については、全員から信頼とご満足いただけている。

事業所名 ディヤーナ国際アフタースクール綱島

担当者 大畑慶高